

— 株主の皆様とのコミュニケーションツール —

クラレ通信

第130期

2010年4-9月期 報告書

2010年4月1日～2010年9月30日

CONTENTS

- 1 ... 会社概要
- 2 ... 株主の皆様へ
- 3 ... [特集1]
2010年4-9月期決算概況/
通期業績予想(連結)
- 5 ... [特集2]
社長メッセージ
- 7 ... [特集3]
海外主要拠点マネージャーからの
現況報告
- 9 ... クラレトピックス
- 11 ... 財務情報
- 13 ... 株式情報
- 14 ... お知らせ

株式会社 クラレ

- 社名 株式会社 クラレ
- 英文社名 KURARAY CO., LTD.
- 設立 1926(大正15)年6月24日
- 資本金 890億円(2010年9月30日現在)
- 東京本社 〒100-8115 東京都千代田区大手町1-1-3
大手センタービル
TEL(03)6701-1000 FAX(03)6701-1005
- 大阪本社 〒530-8611 大阪市北区角田町8-1
梅田阪急ビル オフィスタワー
TEL(06)7635-1000 FAX(06)7635-1005
- ホームページ <http://www.kuraray.co.jp/>

■クラレグループの主な事業

化成品・樹脂

ポバール樹脂・フィルム、PVB樹脂・フィルム、
EVOH樹脂・フィルム、イソプレン、ファインケミカル、
メタクリル樹脂、樹脂加工品

織 維

ビニロン、人工皮革、不織布、
面ファスナー、ポリエステル、
テキスタイル

機能材料・メディカル 他

メディカル製品、機能材料、
活性炭、高機能膜、
エンジニアリング

■役員(2010年9月30日現在)

代表取締役会長	和久井 康明
代表取締役社長	伊藤 文大
取締役/専務執行役員	蜷川 洋一
取締役/専務執行役員	片岡 史朗
取締役/常務執行役員	村上 敬司
取締役/常務執行役員	天雲 一裕
取締役/常務執行役員	山本 恭寛
取締役/執行役員	山下 節生
取締役	青本 健作*1
取締役	塩谷 隆英*1

常勤監査役	田中 隼介
常勤監査役	久次米 忠彦
監査役	小野寺 弘夫*2
監査役	山田 洋暉*2
監査役	藤本 美枝*2

常務執行役員	真鍋 光昭
常務執行役員	川原崎 雄一
執行役員	柳田 登
執行役員	前田 公平
執行役員	竹村 眞三
執行役員	長友 紀次
執行役員	福盛 孝明
執行役員	マティアス グトヴァイラー
執行役員	山田 修
執行役員	武本 修一
執行役員	綾 友幸
執行役員	雪吉 邦夫
執行役員	藤井 信雄
執行役員	小野寺 正憲
執行役員	松山 貞秋

*1 青本 健作、塩谷 隆英は、社外取締役です。

*2 小野寺 弘夫、山田 洋暉、藤本 美枝は、社外監査役です。

- (注) 1.この冊子に記載した当社財務データはすべて連結ベースです。
2.この冊子に記載の〈 〉をつけた名称は、当社グループの製品の商標です。
3.この冊子に記載した億円単位の当社財務データ(実績値)は、億円未満を四捨五入して表示しています。



代表取締役社長
伊藤 文大

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素はクレ
レグループをご支援いただき、厚く御礼申し上げます。

当第2四半期連結累計期間(2010年4月1日～2010年9月30日)の経営環境は、中国をは
じめとする新興国経済の好調さに加え、欧米の景気も徐々に回復に向かったことにより、当
社グループが取り扱う製品の需要が次第に回復してきました。一方で、世界景気や、急激な
円高に伴う日本経済の減速懸念など、先行き予断を許さない状況が続きました。こうした中
で当社グループは、引き続き固定費削減をはじめとする収益構造改善策に全社を挙げて取り
組みました。さらに中期アクションプラン『GS-Twins』(2009年度～2011年度)に掲げた事業
拡大、成長に向けた積極的な施策も順次実行しています。

当第2四半期連結累計期間におきましては、上述の収益構造改善効果の発現や液晶・
LED関連の販売が順調に拡大したことに加え、ポパール樹脂、〈エパール〉、インブレンなど
の基幹事業も需要回復に伴い業績を伸ばすことができました。加えて、販売数量拡大に伴
い各事業の設備稼働率も改善しました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は180,775百万円(前期比15.1%
増)、営業利益は25,461百万円(同160.9%増)、経常利益は24,995百万円(同165.7%増)、
四半期純利益は13,913百万円(同166.5%増)と大幅な増収・増益を達成することができま
した。年初の業績予想との比較においても売上高および各利益項目は全て予想値を上回
りました。

第3四半期以降も、収益構造改善策を継続するとともに、事業拡大、成長に向けた積極
的な施策を進め、2010年度は売上高3,650億円、営業利益520億円、経常利益500億円、
当期純利益285億円を目指します。この利益水準は過去最高益であり、『GS-Twins』の最
終年度である2011年度の営業利益500億円の目標を1年前倒して達成することになりま
す。これを礎に、『10年企業ビジョン』に示した売上高1兆円を視野に入れ、存在感あるス
ペシャリティ化学企業へ向けての持続的成長へつなげたいと考えています。

当社は株主の皆様への利益配分を経営の重要課題と位置付け、連結当期純利益に対
する妥当性向30%以上を目標とし、持続的な業績向上を通じて増配を目指しております。
この方針に基づき、中間配当金は、前年同期実績の8円から5円増配の13円とさせていた
だきました。なお、当期の年間配当金についても、予想連結当期純利益285億円を前提に、
前年実績の16円から11円増配、年初の配当予想24円から3円増配の27円(妥当性向
33.0%)を予定しております。

株主の皆様には、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

伊藤文大

2010年4-9月 期決算概況 / 通期業績予想

2010年4-9月 期決算概況

当第2四半期連結累計期間におきましては、収益構造改善効果の発現や液晶・LED関連の販売が順調に拡大したことに加え、ポパール樹脂、〈エパール〉、イソプレンなどの基幹事業も需要回復に伴い売上げを伸ばしました。また、販売数量拡大に伴い各事業の設備稼働率も改善しました。

■ 上期業績 (セグメント別)

(億円)

	2010年度上期		2009年度上期		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
樹脂	748	252	648	169	+100	+83
化学品	375	34	314	△13	+60	+47
繊維	306	1	278	△16	+28	+17
トレーディング	579	15	498	7	+81	+8
その他	275	24	224	19	+51	+5
調整額	△474	△72	△392	△69	△83	△3
合計	1,808	255	1,571	98	+237	+157

第2四半期連結累計期間の平均為替(実績)は米ドル89円、ユーロ114円、国産ナフサ46千円/KLでした。

■ セグメント別の状況

樹脂

樹脂事業は、各事業とも中国を含むアジア市場に加え、欧米でも順調に回復が進みました。

- ① ポパール樹脂は、中国を含むアジア市場および欧州市場が好調でした。さらに、欧州は、ユーロ安に伴い他地域からの競合品流入が減少し、現地法人の拡販につながっています。光学用ポパールフィルムは、旺盛な液晶テレビ需要を背景に偏光板向けに販売が伸長しました。PVBフィルムは、太陽光発電向け封止材用途が徐々に拡大してきたものの、欧州建築市場における競合激化により、厳しい状況が続きました。
- ② EVOH樹脂(〈エパール〉)は、米国・欧州における食品包装用途、自動車用途ともに需要が拡大しました。また、新興諸国向けの需要が拡大する中、特にアジア市場では中国の自動車用途を中心に一層の伸びを示しました。さらに、国内外で冷蔵庫の真空断熱板向けの採用が進むなど、新規用途でも販売が拡大しました。

化学品

化学品事業は、各事業とも中国を含むアジア市場を中心に販売を拡大しました。

- ① メタクリル樹脂は、液晶向け導光板用途の需要が旺盛であり、成形材料、シートともに販売が伸びました。
- ② イソプレンは、熱可塑性エラストマー(セプトン)がアジア・欧米で堅調に推移しました。また、化学品・ファインケミカルも国内・アジアを中心に販売が回復するとともに、製品の高付加価値化が進みました。
- ③ メディカルは、歯科材料が欧米における新タイプのコンポジットレジン・ボンドの市場投入や販売体制強化の効果などもあり、堅調に推移しました。
- ④ 耐熱性ポリアミド樹脂(ジェネスタ)は、コネクタなどの電子部材向けの回復は緩やかながら、エッジライト方式による液晶テレビに使用されるLED反射板用途の需要が拡大しました。

(連結)

金額表示は、億円未満を四捨五入して表示しています。

繊維

繊維事業は、ビニロンをはじめほぼ全事業において需要回復が進みました。

- ① ビニロンは、自動車用ブレーキホース用途、一次電池セパレータ用途の需要が拡大しました。また、アスベスト代替のFRC（繊維補強セメント）用途の需要が徐々に回復しました。
- ② 人工皮革〈クラリーノ〉は、既存品および環境対応型の新プロセス品が靴用途などで回復が進みました。
- ③ 不織布〈クラフレックス〉は、工業用ワイパーが堅調ながら、産業用マスクは需要が停滞しました。スチームジェットタイプの〈フレクスター〉は新規用途展開が進みました。
- ④ 面ファスナー〈マジックテープ〉は、自動車関連、住宅関連が低調ながら、産業資材、メディカル、鉄道関係の需要は堅調に推移しました。
- ⑤ 高強力繊維〈ベクトラン〉は、中国向けの光ファイバー補強用途の需要が拡大するなど徐々に回復に向かいました。

トレーディング

トレーディング事業は、ポリエステルをはじめ繊維関連事業（衣料・資材分野）において、差別化素材が順調に進展しました。樹脂・化学品・化成品事業は、アジアを中心に順調に販売が拡大しました。

- ① 衣料分野は、フォーマルやユニフォーム用途での生地受注が急速に回復したことに加え、高発色・高質感ポリエステル素材〈エルモザ〉などの独自素材も順調に拡大しました。
- ② 資材分野は、メディカル関連、靴用資材が好調な需要を背景に販売が拡大しました。産業資材も、自動車用資材がアジア向けを中心に拡大しました。
- ③ 樹脂・化学品・化成品事業は、溶剤などの化学品、工業膜・活性炭などの環境資材、アルカリ性水溶性ポリマー〈イソバン〉・エラストマーの加工品などの付加価値型事業が順調に拡大しました。

その他

活性炭がキャパシタ（蓄電装置）、浄水器用途などで堅調に推移し、それ以外の事業は徐々に回復しました。

2010年度 通期業績予想

通期業績予想については、期後半には、原料高に加え円高による日本経済への悪影響などの不安要素があるものの、期前半に引き続き基幹事業が堅調に推移すると予想し、以下のとおり修正します。

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A) (平成22年8月4日)	(百万円) 365,000	(百万円) 48,000	(百万円) 46,000	(百万円) 26,000	(円銭) 74.69
今回修正予想(B)	365,000	52,000	50,000	28,500	81.86
増減額(B-A)	-	+4,000	+4,000	+2,500	
増減率	-	+8.3%	+8.7%	+9.6%	
前期(平成22年3月期)実績	332,880	30,451	28,925	16,315	46.86

主要事業の期後半の前提は以下の通りです。

ポバール樹脂は、アジアおよび欧州での堅調な需要が続くと見えています。光学用ポバールフィルムは、期を通じて堅調に推移すると見えています。一部ユーザーでの生産調整の影響は織り込んでいます。〈エパール〉は、欧米市場における需要の拡大基調が続くと見ており、新興諸国向け、特に中国向け自動車用途、食品包装用途を中心にアジア市場で高い成長を実現すると見えています。

メタクリル樹脂は、価格改定の効果や、導光板向けの成形材料の需要伸長を織り込んでいます。インプレンは、アジアを中心とした需要伸長と新製品や高付加価値品の拡販を織り込んでいます。〈ジェネスタ〉は、LED反射板用途で引き続き販売数量拡大が見込まれます。メディカルは、歯科材料が国内外とも堅調に推移すると見えています。

〈クラリーノ〉の事業構造改革効果の本格的発現は次年度以降と見えています。

通期業績予想(セグメント別)

(億円)

	売上高			営業利益		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期
樹脂	748	742	1,490	252	253	505
化学品	375	415	790	34	56	90
繊維	306	294	600	1	△6	△5
トレーディング	579	581	1,160	15	15	30
その他	275	335	610	24	21	45
調整額	△474	△526	△1,000	△72	△73	△145
合計	1,808	1,842	3,650	255	265	520

第3四半期以降の平均為替は米ドル82円、ユーロ114円、国産ナフサ価格は45千円/KLを前提としています。

中期経営計画“GS-Twins”の進捗状況と



代表取締役社長 伊藤 文大

1 2010年度第2四半期までの状況

2009年4月からスタートした3ヵ年のクラレグループ中期アクションプラン“GS-Twins”は、本年度第2四半期累計期間（以後当期）でちょうど半分が経過しました。“GS-Twins”は、リーマンショック後の先行きが見通せない経営環境の中で作成しました。そのため売上高・利益などの目標数値よりも、実施すべき施策（アクションプラン）を明確に示すこととし、まず大きく損なわれた「収益力の回復」を第一に掲げ、設備投資の圧縮や在庫の削減、生産効率化、人件費の抑制、経費の削減などにグループを挙げて取り組みました。同時に、世界経済が低迷し需要が大きく落ち込んだ時こそ、クラレグ

ループ製品の実力が問われる時であるとの認識の下、ひとつひとつの製品の競争力を分析し、市場での実力の見極めを行いました。その上で、競争力のある製品については、需要が見込める地域や用途で積極的な拡販を行なう一方、競争力に乏しい事業については縮小や撤退を進めました。

これらの施策の結果、最優先課題であった「収益力の回復」についてはリーマンショック前の水準を完全に回復し、当期は営業利益255億円、営業利益率14.1%と過去最高の業績をあげることができました。本年度第3四半期以降も、これらの取り組みを続け企業体質を強化するとともに、主要事業の需要も不安要因はあるものの、総じて堅調に推移すると見込めることから、“GS-Twins”の最終年度（2011年度）の目標とした営業利益500億円については、1年前倒しで達成できる見通しです。当社は次の大きな成長へ向けて、いよいよ「攻めの経営」へ舵を切る時期に入ります。

中期アクションプラン“GS-Twins” 1年前倒し達成へ

“GS-Twins”目標:2011年度営業利益 500億円



“10年企業ビジョン”

[社長メッセージ] 代表取締役社長 伊藤 文大

2 攻めの経営への転換

(1) コア事業の世界戦略加速

当社のコア事業にはポパール製品群、〈エパール〉、イソプレレン等の高い競争力を有する製品があり、これらはこれまでの主力市場であった先進国に加え、今後、新興国での大きな需要増が見込まれます。自動車や家電などの製造業の伸長やインフラの整備に加え、ライフスタイルの先進国化により、これら製品群の市場の重心は、将来、新興国に移ると考えられます。こうした動きに対応するため、中国、インドに続き、本年中にはブラジルに拠点を開設し、販売体制を強化してまいります。また、現在コア事業の設備稼働率は既に90~100%まで回復しており、設備増強については次なる成長を目指す上でタイミングを逃さず行なっていく必要があります。世界を視野に入れた事業の拡大に向けて積極的に取り組んでまいります。

(2) 新事業の創出・拡大

当社にとって、上述のようにコア事業が回復し、業績が伸びている今こそ、次代を担う大型の新事業育成が急務であると考えています。当社はこれまで独創的な技術開発を通じて、他社にはない多くの独自素材を世に送り出してきました。この独自技術を開発するという当社のDNAをさらに発展させるとともに、市場ニーズや市場変化を踏まえ、開発目的や開発期間を明確にして開発のスピードアップを図ります。特に光学材料や電子材料のような市場変化の早い領域では、他社に先んじて顧客ニーズに合致する素材の早期開発と早期の市場投入が肝要です。これまで築いてきた経営資源を積極的に新事業の開発や新用途開拓に振り向け、開発のスピードを上げて、早期に収益への貢献を果たしたいと思えます。

3 10年企業ビジョン

当社は“10年企業ビジョン”として2018年度に売上高1兆円を掲げています。

“10年企業ビジョン”はただ単に規模の追求だけではなく、社会的に存在感のある企業として成長することを目指しています。具体的には、既存事業、新事業を問わず、当社が蓄積してきた技術の強みを、地球温暖化、資源の枯渇、水・食糧不足、環境汚染といった地球規模で直面している諸問題の解決に貢献していくことを通じて成長したいと考えています。既にバラスト水管理システム〈マイクロフェード〉や污泥減容排水処理システム〈ゼクルス〉等のアクア・環境ビジネス、太陽光集光レンズや燃料電池用電解質膜などの新エネルギー関連ビジネスの開発が進みつつあります。また、既存事業でも、〈エパール〉が冷蔵庫の真空断熱板用途で、〈ジェネスタ〉がLED反射板用途で採用され大きく需要を伸ばすなど、新規用途として家電製品の省エネに貢献しています。このように、クラレグループは「未来に化ける新素材＝“ミラバケツ”」を合言葉に、地球の未来に思いを馳せています。

“10年企業ビジョン”は達成が容易な目標ではありませんが、クラレグループ全員が地球の未来に貢献したいという思いを一つにし、一丸となって取り組めば、必ず達成できるものと確信しています。本年10月には、さらなる業績向上に対する社員の意欲や士気を一層高めるため、全グループ社員にストックオプションを付与しました。クラレグループは社会に貢献できる存在感ある企業になることを目指し、株主の皆様とともに、企業価値向上のために努力してまいります。

クラレの製品・サービスは世界で活躍してい

クラレは1986年、米国合弁会社での〈エバル〉の現地生産開始で足がかりを築いた後、世界的な市場の広がりに対応する形で生産・販売の現地化を推進してきました。

現在では、そのネットワークは海外15の国・地域、38拠点へと拡大しています。

主要拠点の現地マネージャーからの“ひとこと”現況報告です。

クラレヨーロッパ

●ドイツ(フランクフルト)

当地で生産しているPVA(樹脂)、PVB(樹脂及びフィルム)だけでなく、クラレグループの商品を幅広く扱っています。現在、回復基調にある欧州主要産業の需要に対応しています。今後は太陽光発電向けのPVBフィルムの拡大が見込まれます。



マティアス グトヴァイラー

エバルヨーロッパ

●ベルギー(アントワープ)

ヨーロッパ市場での〈エバル〉は食品包装用途に加え、自動車、建材向けも経済危機前のレベルに回復しました。ユーロ安は域外輸出を加速し、〈エバル〉にとってプラス要因で追い風が吹いています。新興市場(東欧、中東)開拓や環境関連分野での新規用途開発に取り組んでいます。



渡邊 知行

クラレインド

●インド(デリー)

人口約12億人、実質GDP成長率8%以上、そして中間所得層が急拡大しているインドでのクラレグループ製品の需要開拓に取り組んでいます。多様性の中で日々変化する市場情報を的確に捉えビジネス拡大に繋がります。



佐藤 真一

クラレアジアパシフィック

●シンガポール(シンガポール)

東南アジアは経済危機を乗り越え、今年は堅調な成長をみせています。主力のポバール樹脂を始めブチラール樹脂、〈エバル〉事業などの拡大に注力するとともに、水ビジネスの拠点であるシンガポールでアクア部門が事業活動を開始しました。



林 栄一



まず ～海外主要拠点マネージャーからの現況報告～



クラレアメリカ

- アメリカ(ヒューストン)
- アメリカ(ニューヨーク)

ヒューストンは世界の石油化学産業の中心地です。当社にとっても〈エパール〉、〈セプトン〉の最大の生産拠点であり、北米、南米市場だけではなく、欧州、アジアへの供給基地でもあります。米国では生産していない事業の製品のマーケティングも活発に行い、西半球におけるクラレグループのプレゼンスを強化しています。



阿部 憲一

クラレサウスアメリカ

- ブラジル(サンパウロ)

活況を呈す南米におけるクラレのプレゼンス向上、ビジネスの拡大を目指し新会社を設立いたしました。来年より本格的に活動を開始し、クラレの製品が南米津々浦々に行き渡るべく頑張っていきます。



帆足 昭洋

クラレ香港

- 中国(香港)

人工皮革〈クラリーノ〉のアジアでの拠点です。香港のほかに、台湾の台中、広東省の東莞と広州にも販売拠点を開設しています。天然皮革を超える質感と機能の両立の一方で、低価格や短納期対応も目下の課題です。



吉住 有司

クラレ上海

- 中国(上海)

史上最大の万博を開催した上海は、世界第2位の経済大国中国の中心商業都市として、その存在感を益々強めています。1978年の日中国交樹立以前から中国に基幹事業のプラント輸出実績を残した当社の歴史的な土台の上に、"新時代を築く"ことが我々の使命です。



眞野 信太郎

クラレトピックス [クラレの情報が一目でわかる]

2010年 4月

5月

6月

■ブラジル現地法人の設立決定について

南米における市場開発を加速し、中期アクションプラン『GS-Twins』（2009年度～2011年度）に掲げる「コア事業における新興経済圏市場の展開加速」を具現化するため、ブラジル サンパウロ市に現地法人の設立を決定しました。

業務開始目標	2010年内
目標	5年後にクラレグループの中南米地区売上高を200百万ドルへ拡大

■〈セプトン〉Jシリーズの開発

水添スチレン系熱可塑性エラストマー〈セプトン〉の高性能・高機能銘柄として、柔軟性・ソフト感を最大の特長とする〈セプトン〉Jシリーズを開発しました。

従来の〈セプトン〉に比べ、特に柔軟性・ソフト感が優れており、関節用サポーターやOA機器・携帯電話など各種デジタル機器の衝撃吸収材、緩衝材用途などへの展開が期待されています。



■偏光フィルム向け光学用ポリアルフィルム生産設備の増設を決定

LCD(液晶ディスプレイ)の基幹部材である偏光フィルムのベースとなる光学用ポリアルフィルムの生産設備を、西条事業所(愛媛県西条市)において増設(年産2,000万㎡)することを決定しました。

約50億円をかけて設備投資を行い、稼働時期は2012年度 第1四半期(4月～6月)の予定です。

生産能力

事業所	現行	増設後
西条事業所	6,000万㎡	8,000万㎡
倉敷事業所	10,000万㎡	10,000万㎡
合計	16,000万㎡	18,000万㎡

■大阪本社移転のお知らせ

大阪本社は、5月6日にクラレグループ各社とともに、大阪市北区梅田から同区角田町8番1号梅田阪急ビルオフィスタワーに移転しました。



梅田阪急ビル
オフィスタワー外観

■人工皮革(クラリーノ)環境対応型無溶剤タイプの工業化で平成21年度「繊維学会技術賞」を受賞

人工皮革(クラリーノ)無溶剤タイプの工業化が、平成21年度「繊維学会技術賞*」を受賞しました。

これは、製造工程中に有機溶剤を使用せず、VOC(揮発性有機化合物)を99%以上削減でき、製造工程を最短で約1/5に短縮、CO₂は約35%、排水量は約70%削減できる(各当社従来品比)、当社が業界に先駆けて開発した環境対応型人工皮革の生産システムです。

*「繊維学会技術賞」は、繊維の基礎化学と技術を基盤とする複合的、先端的工学分野の創造を活動目標とする社団法人繊維学会が主催するもので、繊維に関する優れた技術を開発し、繊維工業の発展に貢献した会員を対象として、その功労を顕彰するものです。

クラレのニュースリリースを時系列にまとめています。(記載内容は2010年9月末現在)

7月

8月

9月

■機能性樹脂〈エパール〉APシリーズの展開について

酸素を吸収することでガスバリア性能を向上させた機能性樹脂〈エパール〉APシリーズが、キュービー株式会社の新品に採用されました。

本商品は通常容量の樹脂製ボトルに比べ容器の厚さが薄く、従来の〈エパール〉よりもさらに優れた酸素遮断性能が必要であり、〈エパール〉APシリーズの採用により商品化が可能となりました。

今回の採用を機に用途開発、マーケット開拓を加速しています。



容器部分に〈エパール〉APシリーズを使用した「キュービーハーフ」(ディスベンパック)

単位：cc/日

酸素透過量の比較

	一般的なポリエチレン	従来品〈エパール〉	〈エパール〉APシリーズ
酸素透過量	900.00	0.09	0.00

※1 厚み20μmのフィルムを、温度20℃、湿度65%の条件で測定した場合(クラレ調べ)

※2 〈エパール〉APシリーズは、酸素吸収剤の効果がなくなった後、従来品〈エパール〉と同等の酸素遮断性能になります。

■新潟事業所が障害者雇用優良事業所として表彰されました

新潟事業所は、「平成22年度障害者雇用優良事業所等表彰」(主催:厚生労働省、高齢・障害者雇用支援機構)の「理事長表彰」を受賞しました。

知的障害者雇用施設「クラレ作業所」を行政・社会福祉法人の協力を得ながら運営し、地域の障害者雇用促進に貢献している点が評価されました。

同作業所では、2010年9月現在20名の障害者が働いています。



新潟事業所

■アクリル系熱可塑性エラストマーのブランド名を〈KURARITY(クラリティ)〉に決定

当社の独自技術によって世界で初めて工業化に成功したオンリーワン素材「アクリル系熱可塑性エラストマー」に〈KURARITY(クラリティ)〉と名付けました。製品名は特長である「透明性」(clarity)に由来し、国内外で商標登録を申請中です。

この〈KURARITY(クラリティ)〉は、メタクリル酸メチルの「透明性」「耐候性」とアクリル酸ブチルの「柔軟性」「接着性」など双方の特長を有する熱可塑性エラストマーです。今後本製品のグローバルな用途開拓を加速させていきます。



使用例：ライトガイド



透明で柔軟な成形シート

■ 四半期連結損益計算書の要約

(単位:億円)

科目	第2四半期*1	前第2四半期*2	増減
売上高	1,808	1,571	237
売上原価	1,219	1,154	65
売上総利益	588	416	172
販売費及び一般管理費	334	319	15
営業利益	255	98	157
営業外収益	17	18	△1
営業外費用	22	22	△0
経常利益	250	94	156
特別損失	26	13	13
税金等調整前四半期純利益	224	81	143
法人税、住民税及び事業税	88	29	60
法人税等調整額	△4	0	△4
少数株主損益調整前四半期純利益	140	53	87
少数株主損益	1	0	0
4-9月期 純利益	139	52	87

*1: 2010年4月1日~2010年9月30日 *2: 2009年4月1日~2009年9月30日

※損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書の金額表示は、億円未満を四捨五入しています。

■ 四半期連結貸借対照表の要約

(単位:億円)

資産の部	第2四半期*1	前期*2	増減
流動資産	2,608	2,493	114
現金及び預金	322	290	32
受取手形及び売掛金	793	759	33
有価証券	800	740	60
棚卸資産	570	578	△8
繰延税金資産	62	58	4
その他	69	74	△5
貸倒引当金	△8	△6	△2
固定資産	2,333	2,535	△202
有形固定資産	1,513	1,637	△124
建物及び構築物	346	349	△3
機械装置及び運搬具	864	962	△98
建設仮勘定	96	116	△20
その他	207	211	△4
無形固定資産	170	218	△48
投資その他の資産	651	680	△29
投資有価証券	459	490	△31
その他	195	195	△1
貸倒引当金	△3	△5	3
資産合計	4,941	5,028	△88

*1: 2010年9月30日現在 *2: 2010年3月31日現在

■ 売上高・営業利益・営業利益率(連結)



*営業利益率=営業利益÷売上高×100(%)

■ 総資産・ROA・自己資本・ROE(連結)



*ROA(総資産利益率)=営業利益÷期首・期末平均総資産×100(%)

*ROE(自己資本利益率)=当期純利益÷期首・期末平均自己資本×100(%)

(単位:億円)

負債の部	第2四半期*1	前期*2	増減
流動負債	699	766	△ 67
支払手形及び買掛金	289	272	17
短期借入金	102	122	△ 19
その他	307	372	△ 64
固定負債	872	884	△ 12
社債	100	100	—
長期借入金	457	465	△ 8
その他	315	319	△ 4
負債合計	1,571	1,650	△ 79
純資産の部	第2四半期*1	前期*2	増減
株主資本	3,504	3,392	112
資本金	890	890	—
資本剰余金	872	872	△ 0
利益剰余金	2,152	2,041	111
自己株式	△ 409	△ 411	1
評価・換算差額等	△ 167	△ 46	△ 122
その他有価証券評価差額金	19	38	△ 19
繰延ヘッジ損益	△ 1	△ 1	1
為替換算調整勘定	△ 186	△ 82	△ 104
新株予約権	2	2	0
少数株主持分	31	30	1
純資産合計	3,370	3,378	△ 9
負債及び純資産合計	4,941	5,028	△ 88

*1: 2010年9月30日現在 *2: 2010年3月31日現在

■ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書の要約

(単位:億円)

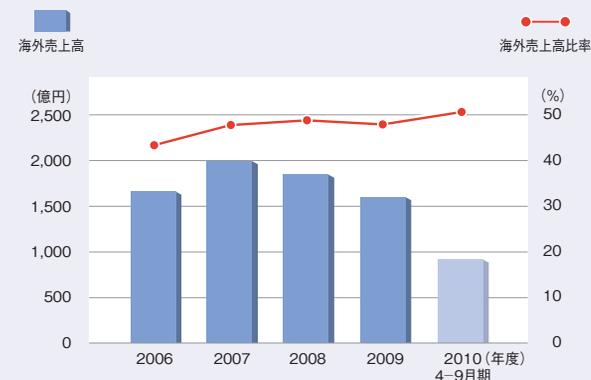
科目	第2四半期*1	前第2四半期*2
1. 営業活動によるキャッシュ・フロー	316	383
税金等調整前四半期純利益	224	81
減価償却費	163	170
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△ 60	21
その他営業活動による支出	△ 11	111
2. 投資活動によるキャッシュ・フロー	83	△ 739
有形・無形固定資産の取得による支出	△ 90	△ 130
その他投資活動による収支	173	△ 609
3. 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 118	27
借入金の純増減額	△ 89	64
配当金の支払額	△ 28	△ 35
その他	△ 2	△ 3
4. 現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 10	2
5. 現金及び現金同等物の増減額	271	△ 327
6. 現金及び現金同等物期首残高	164	462
7. 現金及び現金同等物の四半期残高	435	135

*1: 2010年4月1日～2010年9月30日 *2: 2009年4月1日～2009年9月30日

■ 2010年4-9月期 設備投資費・減価償却費・研究開発費



■ 海外売上高推移(連結)



■発行可能株式総数

1,000,000,000 株

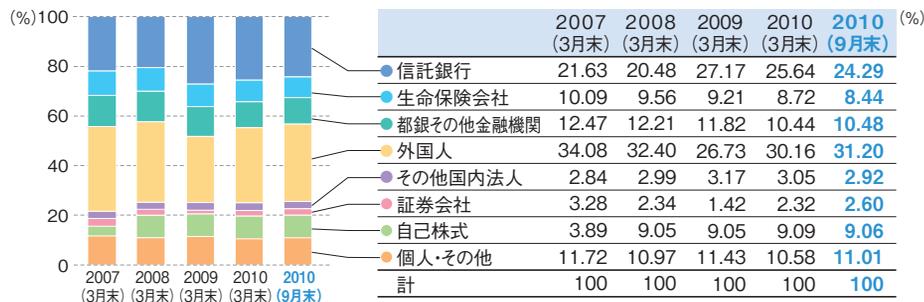
■発行済株式の総数

382,863,603 株

■株主数

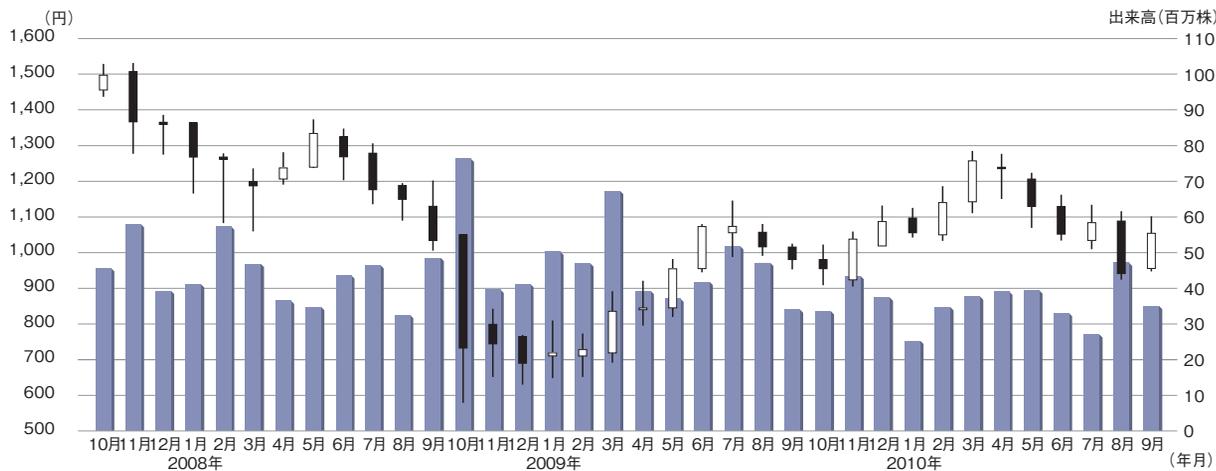
27,469 名

■所有者別株式分布の推移

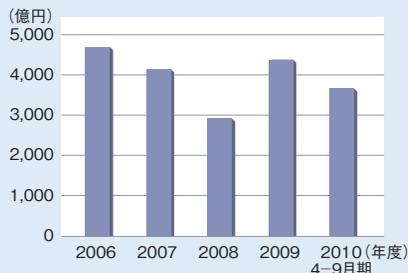


■株価・出来高の推移チャート

株価は東京証券取引所における市場相場による。

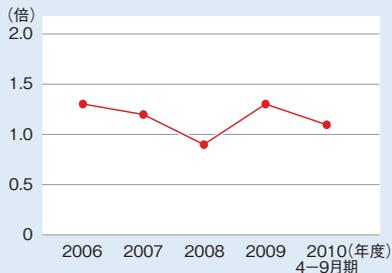


■時価総額(期末)



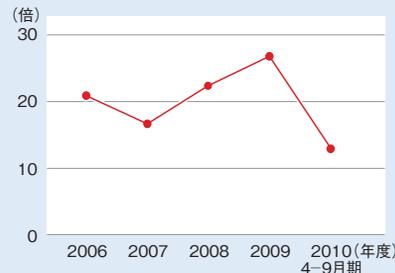
*時価総額=期末株価×(期末発行済株式総数-期末自己株式数)

■PBR(株価純資産倍率)



*PBR=期末株価÷1株当たり連結純資産額

■PER(株価収益率)



*PER=期末株価÷(当期利益+期中平均発行済株式総数)
*2010年度4-9月期のPERは、2010年9月末日の株価、期中平均発行済株式総数、通期の当期利益見直しに基づき算出しています。

株主様事業所見学会のご案内

岡山事業所は、岡山市南部の旭川河口にあり、化学・繊維の基盤事業をかかえる事業所です。国産初の合成繊維ビニロンをはじめ、ポパール樹脂、EVOH樹脂(エパール)、人工皮革(クラリーノ)、不織布(クラフレックス)などを生産しています。

この度、株主様に当社をよりご理解いただくことを目的に事業所見学会を催します。

今回の募集は40名(株主様限定)です。ご希望の方は添付のアンケートハガキの「事業所見学会に参加希望」欄に当事業所へのアクセス(電車、車、徒歩など)をご記入のうえ、ご投函下さい。

●日時
2011年2月25日(金) 12:00~15:30(予定)

●場所
株式会社クラレ 岡山事業所
〒702-8601
岡山県岡山市南区海岸通1-2-1

●集合場所
JR岡山駅
AM12:00(送迎バスをご用意します。)
●お車の方は直接、事業所へお越しください。
●当日のご集合場所までの交通費は株主様のご負担とさせていただきます。
●やむを得ぬ事情により、時間等の変更、あるいは中止になることもありますのであらかじめご了承ください。

●募集人数 40名(株主様限定)

●お申込み締切り 12月24日到着分をもって締切りとさせていただきます。応募多数の場合は抽選とさせていただきます。当選の株主様には当日の詳細を後日直接ご案内いたします。

●ご不明な点がございましたら下記までご連絡をお願いいたします。
株式会社クラレ IR・広報部
TEL:03-6701-1122



岡山事業所 正門

株主メモ

株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、下記の電話照会先にご連絡ください。

株主名簿管理人 東京都中央区八重洲二丁目3番1号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
事務取扱場所 (電話照会先) ☎ 0120-176417(受付時間 土・日・祝祭日を除く9時~17時)

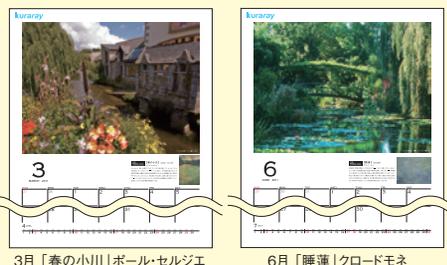
アンケートご協力をお願い

「クラレ通信」をご覧いただきまして、ありがとうございます。今後とも、株主の皆様とのコミュニケーションの向上を図っていきたく思います。つきましては、添付のアンケートにご協力くださいますようお願い申し上げます。

ご回答いただいた方には、2011年クラレグループカレンダー「THE GREAT LANDSCAPES—名画の風景—」をプレゼントさせていただきます。

2011年版は、当社創業者 大原孫三郎の設立した大原美術館(岡山県倉敷市)の所蔵名画と、その絵に関する風景に光をあてました。同美術館所蔵の風景画の中から代表的な12枚を取り上げ、その絵のモチーフとなった美しい自然風景の写真をメインビジュアルとして配置。名画の描かれた時代背景、作者が込めた想いなどをコラムで解説しています。

なお、勝手ながらアンケートは12月31日(消印有効)に締め切らせていただきますので、予めご了承をお願い申し上げます。ご応募いただいた時期によりましては、翌年1月の発送となりますことをご了承くださいますようお願い申し上げます。



見開き時B3サイズ
(タテ約52cm×ヨコ約36cm)
の両面印刷で7枚14ページ
構成のカレンダーです。

kuraray



FTSE4Good

クラレは世界的な社会的責任投資 (SRI) 株式指数の構成銘柄に選定されています。

エコマーク認定の再生紙を使用しています。